

福山大学 生命工学部 海洋生物科学科 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中長期計画	本学科は現状で多くの受験生を集め定員を確保できているので、当面は学科の目的を大幅に変更する予定はないが、生命工学部全体の方向性、及び社会や受験生のニーズを考慮しながら定期的に学科の目的を検証し、必要が認められれば見直しを行いたい。 中目標： ・基本的に、カリキュラムの学年進行に沿って4年毎に適切性の検証を行う。 小目標： ・全学的な手続きに従って2016(平成28)年度に学部・学科の目的の改定を行ったので、当面は現状を維持する。 ・大学HPや大学ポートレート(私学版)に掲載されている学科の目的を改訂した内容に更新する。 ・大学ポートレート(私学版)の本学生命工学部のページに関する更新について責任体制を明確にし、定期的に更新が行えるようにする。

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	・生命工学部規則の中で、生命工学部の目的を「生命のしくみを解明し、生物資源、環境、栄養・健康など、人類の抱える諸問題を解決する理論、技術、手法に関する教育・研究を行う。これらを通して、社会の要請に応えうる確かな能力を備えた人材の養成を目的とする。」と明確に定めている。 ・同じく生命工学部規則の中で、本学科の目的を「海洋生物科学科では、海を身近なものとして利用し守ってきた知恵に学び、広く社会で活躍できる教養と視野を持ち、実践する力のある社会人を養成することを目的としている。1.食品の開発、衛生管理、製造等の分野で活躍でき、特に水産系食品に強い人材を育成する。2.持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材を育成する。3.生態系に関する知識および調査の技能を活用して、持続可能な社会の構築に向けて企業・研究機関等の環境部門で活躍できる人材を育成する。4.水生生物の生理、生態に関する知識や飼育、展示、繁殖に関する技能を活用して、種の保存や希少種の保護を視野に含めた飼育・展示・啓発活動を行う施設、研究機関、企業等で活躍できる人材を育成する。」と明確に定めている。 ・本学科の教育目的は、本学の建学理念を表す「三蔵五訓」並びに本学の教育理念・目的、及び生命工学部の教育目的に沿っている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	本学科の目的は、社会や地域の要請に対応して適切に設定されている。学科の目標と合致したカリキュラム設定ならびに学生指導等を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2018
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科は、因島キャンパスに穏やかな瀬戸内海のフィールド並びに内海生物資源研究所附属水族館等の施設を擁しており、学科の教育目的を実践するにふさわしい資源を有しているといえる。 ・本学科の教育目的やカリキュラムは、他大学には殆どみられない水族館施設や、フィールドでの実験・実習に適する穏やかな瀬戸内海に面した因島キャンパスなど、本学の特色を最大限に活用したものとなっており、現状でも他大学の学部・学科との区別化ができていると判断している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	本学科は瀬戸内海に面した、内海生物資源研究所附属水族館並びに増養殖の研究施設を含む因島キャンパスを活用した教育研究を行っており、前項に記載した学科の目的に叶う資源を有しているといえる。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	・近年多くの受験生を集め、入学者も定員を大幅に超えている状況が続いていることからみて、本学科の理念・目的は社会と時代の要請に叶う適切なものであると判断している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・平成31年度入試において多くの受験生を集め、一般入試においても十分な選抜を行うことができたこと、また4年次生の実質就職率が90%を超えたことは、本学科の理念・目的の適切性を示す結果と判断している。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成31年度学校基本調査 学校調査票(大学)学部学生内訳票 ②平成31年度学校基本調査 卒業後の状況調査票
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	・本学科の目的は、学生便覧と大学HPに掲載され、学科教職員に周知している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	学科教員についてはこれらの策定時から学科会議で方針を共有して作業を行ってきたので当然周知していると判断している。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①学生便覧2018 ②福山大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科の目的は、さらにディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーなどに明文化され、学生便覧やFUKUYAMA UNIVERSITY GUIDE BOOK、大学HP、大学ポートレート(私学版)などを通じて広く社会に公表している。 ・入試説明会、大学見学会、高大連携授業、就職懇談会、保証人を対象に開催している教育懇談会など様々な場面において、学科の目的を説明し、周知に努めている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	今年度も入試説明会、大学オープンキャンパス(体験入学会、見学会)、高大連携授業、就職懇談会、保証人を対象に開催している教育懇談会など様々な場面において、学科の目的を説明し、周知に努めた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2018 ②大学HP ③大学ポートレート(私学版)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	・中長期計画の中目標に示すように、カリキュラムの学年進行に沿って4年毎に適切性の検証を行う。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・平成29年度に実施した生命工学部外部評価において、生命工学部及び本学科を含む3学科の目的は、7名の外部委員全員から社会や地域の要請に対応して適切に設定されていると評価され、この外部評価に関する報告書は平成30年度に大学HP上で公表された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	・本学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーは、学科の目的および教育目的・教育内容に沿っており、適切と判断している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	本学科の教育目的、三つのポリシーの適切性についても平成29年度に受審した生命工学部外部評価において、適切に設定されていると評価された。この外部評価に関する報告書は平成30年度に大学HP上で公表された。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	<p>・本学科の教育研究組織の編成は、「海洋生物科学科は、海洋の生物と環境についての深い理解にもとづいて、海洋の環境と生態系の保全、あるいは海洋生物資源の持続可能な利用に主体的に取り組み、循環型社会の構築に貢献できる人材を養成することを目的とする。」(学生便覧2017)という学科の目的の実現を目指して、資源利用育成分野、フィールド生態環境分野、アクアリウム科学分野、及び水産食品科学分野の4分野から構成するとともに、9研究室を臨海キャンパスの特性を活かすことのできる因島キャンパスと高度な研究機器を備えた福山キャンパスとに適切に振り分けて配置することにより、効果的な教育の実現と社会のニーズに応えうる研究の推進を意図している。</p> <p>・本学科の目的は、本学の建学の理念である三蔵五訓(学生便覧2017)並びに本学の教育理念・目的(学生便覧2017)に沿っていることから、上記の編成原則は本学の教育理念・目的に沿っていると判断している。</p>
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・今年度は現状説明に記載した編成原則を変更しなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度の学生便覧 ②学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中長期計画	<p>本学科は現状多くの学生を集めることに成功しているが、今後も生命工学部全体の方向性、及び社会と受験生のニーズに対応して定期的にカリキュラムを改訂・改善し、HPを中心に学科の特徴・魅力を受験生とその父母に向けて発信するとともに、オープンキャンパス(見学会・体験入学会)を通じてそれらのアピールに努める。また、従来から実施している高大・社会連携事業を引き続いだ実施し、将来の受験生の掘り起こしに努める。</p> <p>細やかな修学支援・生活支援・進路支援を通じて、「面倒見が良い大学」という本学・本学科の評価を今後もキープし、それを学生募集につなげていけるように努力する。</p> <p>中目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も入学定員を維持する。 ・入学者選抜がアドミッション・ポリシーに基づいて適切に行われているかどうかを検証するしくみについて検討する。 ・現状では入学生の十数%に留まっている女子学生の割合を30%程度まで増加させたい。 ・修学支援については、これまでと同様にクラス担任・卒業研究指導教員による細やかな面談を通じて行っていく。 ・生活支援についても主にクラス担任・卒業研究指導教員が担当するが、必要に応じて保健管理センター・心理カウンセラーと連携をとりながら行なっていきたい。 ・進路支援については全学的なプログラムに加え、学科独自のキャリア教育の実施、卒業研究指導教員による面談、助言、履歴書の作成指導、面接の練習などを通じた就職活動の支援や、就職活動に役立つ資格の取得の支援等を積極的に行っていきたい。 <p>小目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜方法の改革について学科内および生命工学部内で議論し、必要と判断すれば入試委員会等に提案を行う。 ・学生支援に対する学生の意見を汲み上げるための学科独自のアンケート調査を実施する。 ・卒業研究指導教員が就職委員及び就職課と連携を取りながら細やかな就職活動支援を行うことにより、未内定者ゼロを目指す。 ・学科会議の下部に学科の自己点検評価委員会を組織し、留年者及び休・退学者の状況把握と対処の適切性について検証を行う。
	<p>2018年度</p>

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科ではアドミッション・ポリシーを2010(平成22)年に初めて定め、2013(平成25)年度に改訂を行った。また2016(平成28)年度にも全学的な手続きに従って改訂を行った。このアドミッション・ポリシーは学生便覧2017に掲載されているほか、既に大学HP上で公開されている。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・大学便覧、大学HP、大学ポートレート(私学版)などを通じて広く社会に公表している。 ・高校生とその保護者を対象に開催している入試説明会、大学見学会、AO入試などにおいて、学科のアドミッション・ポリシーを説明し、周知に努めた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学便覧2018 ②大学HP ③大学ポートレート(私学版)

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受け入れの改善に生かしていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に本学科に入学している学生のうち、前・後期入試と大学入試センター試験利用入試による入学者の多くは、本学科が第1志望ではないため、アドミッション・ポリシーに適合した学生であるか確定できない。 本学科で何を学べるか、本学科でしか学べない事は何か、また本学科で学ぶことで将来どういう仕事につくことを目指せるか等について、1年次前期の「海洋生物科学入門」や「キャリアデザインⅠ」を通じて学生に明確に伝え、上に記述した、アドミッション・ポリシーに適合していないと思われる学生のモチベーションを高めるよう工夫している。また、同科目の期末試験において3年次生以降に進みたいコースとその選択の理由、および4年次で行いたい卒業研究の内容について記述させ、その記述内容からアドミッション・ポリシーに適合していない入学者の洗い出しを試みている。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、本学科で導入科目と位置づけている「海洋生物科学入門」の講義の中で、学生のモチベーションを高める工夫を行っていく。 「海洋生物科学入門」の期末試験答案の記載内容の分析を通じて、アドミッション・ポリシーに適合した学生の有無について検証する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 今年度も現状説明に記載したように「海洋生物科学入門」や「キャリアデザインⅠ」の中で本学科で何を学べるか、本学科でしか学べない事は何か、また本学科で学ぶことで将来どういう仕事につくことを目指せるか等について学生に明確に伝え、学生のモチベーションを高めるよう努力した。 1年次生対象科目「海洋生物科学入門」の期末試験答案において、3年次以降に選択したいコースとその選択理由、および4年次に行ってみたい卒業研究の内容について記載させているが、「興味を持てる内容がない」、「やりたい卒業研究がない」などの不本意入学とされるような記載は見当たらなかった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①「海洋生物科学入門」の期末試験答案
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受け入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 本学科の2016年度の入学生受け入れ状況は、入学定員数100人、入学者数 104人、入学定員充足率 104%、2017年度では入学者数 109人、入学定員充足率 109%、2018年度では入学者数 111人、入学定員充足率 111%であった。 本学科では、2012(平成24)年以降在籍学生数が収容定員の1.3倍を上回っていたことから、2016(平成28)年度から入学定員を100名に増加した。 受験生の出身地、出身校、男女比、成績、課外活動などの情報を収集して分析しているが、増減の原因を特定することができていない。
年度目標	・現在の入学定員100名を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 2017年度入学者数 109人、入学定員充足率 109%、2018(平成30)年度入学者:111人、入学定員充足率:111%であった。 本学科の入学定員100名に対して、平成31年度入学者数は3月29日の時点で114名であり、引き続き入学定員を充足する見込みである。 2017年度、2018年度、2019年度のデータから関東、東北、北陸などの地域から受験する学生が増えたことが要因として考えられる。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①平成31年度学校基本調査 学校調査票(大学)学部学生内訳票
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	・本学科では2012(平成24)年度以降連続して入学定員を満たしており、2014(平成26)年度入試以降は、一般入試において充分に選抜を行うことができるだけの志願者数(受験者数)を集めることができている。また、受験生を地元の広島県や中国地方からだけでなく全国から集めることができている。このことは、当学科の魅力が充分に発信できていることの現れと評価している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・2019年度の入学者を迎えた場合、収容定員についても8年連続で充足する。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成31年度学校基本調査 学校調査票(大学)学部学生内訳票
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	・2016(平成28)年度に評議会において本学の「学生支援のポリシー」が定められたことを受けて、本学科においてもこのポリシーに則って修学・生活・進路支援を行っていくことにした。修学支援は教務課と、生活支援は学生課・保健管理センターと、進路支援は就職課・自分未来創造室とそれぞれ連携をとっている。大学HPや学生便覧などを通じて学内外に公表し、周知している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度定例学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	・大学院工学研究科生命工学専攻に在籍する大学院生をティーチング・アシスタント(TA)として雇用し、学生実験の補助を担当させている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・8名の大学院生が、2年次配当実験・実習科目2科目、3年次配当実験・実習科目4科目、及び学芸員養成課程実習科目1科目において実験の補助を担当した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①平成30年度ティーチング・アシスタント経費計画調書(生命工学専攻)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	<p>本学科の専門科目の中で提供しているキャリア教育についてのみ述べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門教育科目の1～3年次生に「進路探求系科目」を配置し、学生各人が自己の興味・特性を理解して進路を選択・決定するために必要な知識、能力を養っている。 1年次の「海洋生物科学入門」で本学科の教育と研究の狙いを理解することを目標とし、「進路探求Ⅰ（2年次）」ではコース選択を通じて各自の興味・特性の理解を図り、「進路探求Ⅱ（3年次）」で自己の適性に基づいた進路の選択を促している。 一般的な社会人基礎力については全学共通科目の「キャリアデザインⅠ～Ⅳ」でその養成を図っている。 専門科目のキャリア系3科目について、以下のような達成目標を設定し、成果の検証を行っている。 <ol style="list-style-type: none"> 「海洋生物科学入門」: 本学科の教育・研究内容を全学生が理解する 「進路探求Ⅰ」: 全学生が各自の興味・適性に基づいてコース選択をする 「進路探求Ⅱ」: 全学生が各自の目標とする進路とその選択理由を述べることができる
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 「海洋生物科学入門」の定期試験を受験した1年次生全員が3年次以降に進みたいコース、及び4年次で実施してみたい卒業研究の内容を述べることができた。 「進路探求Ⅰ」を受講した2年次生のうち留年者を除いて全員が3年次以降に進むコースを自らの意思で決定することができた。 「進路探求Ⅱ」を受講した3年次生全員が卒論研究室の配属希望、並びにその選択理由を述べることことができた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度前期科目「海洋生物科学入門」答案 ②平成30年度10月、11月、1月、及び3月定例学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	<p>卒業生の進路に関する過去3年間のデータを示す。</p> <p>2015年度：卒業者数 102人 内定数 90人 大学院進学 2人 その他 10人</p> <p>2016年度：卒業者数 92人 内定数 83人 大学院進学 6人 その他 3人</p> <p>2017年度：卒業者数 101人 内定数 95人 大学院進学 5人 その他 1人</p> <ul style="list-style-type: none"> 卒業研究指導教員が就職委員および就職課と連携を取りながら細やかな就職活動支援を行った結果、2017年度（3月13日現在）の実質就職率は99%となり、未内定者はゼロになった。
年度目標	・引き続き、卒業研究指導教員が就職委員及び就職課と密に連携を取りながら細やかな就職活動支援を行うことにより、未内定者ゼロを目指す。

年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の卒業者数、就職内定者数、進学者数、及び就職率は以下の通りであり、実就職率は昨年度を6.3ポイント上回る92.7%となった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>卒業者数</th><th>内定者数</th><th>進学者数</th><th>未内定者数</th><th>その他</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>97名</td><td>89名</td><td>2名</td><td>0名</td><td>6名</td></tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業研究指導教員が中心となって指導を行った結果、就職を希望した学生全員が内定を得ることができた。 	卒業者数	内定者数	進学者数	未内定者数	その他	97名	89名	2名	0名	6名
卒業者数	内定者数	進学者数	未内定者数	その他							
97名	89名	2名	0名	6名							
達成度	S										
改善課題											
根拠資料	①平成30年度学校基本調査 卒業後の状況調査票										
次年度の課題と改善の方策											
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。										
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・全学および学科レベルで資格取得やインターンシップを支援する体制を整備している。資格取得支援では学芸員、食品衛生管理者および食品衛生監視員、教育職員免許教科(理科、水産)、観賞魚飼育管理士、生物分類技能検定(3級、4級)が取得可能である。キャリア形成支援委員会の学科内委員が水族館、水産試験場、企業のインターンシップの支援を行っている。 										
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。 										
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の学芸員、食品衛生管理者および食品衛生監視員、教育職員免許教科(理科、水産)、観賞魚飼育管理士、生物分類技能検定(3級、4級)の資格取得者数は以下の通りとなった。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>学芸員数</th> <th>食品衛生管理者・食品衛生監視員</th> <th>教育職員免許教科、 生物分類 技能検定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14名 4級 19名</td> <td>26名</td> <td>高校理科 4名 水産2名 3級 9名</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・資格担当教員が中心となって指導を行った結果、学科が推奨している資格を取得することができた。 ・今年度のインターンシップ参加者数は5名であった。 	学芸員数	食品衛生管理者・食品衛生監視員	教育職員免許教科、 生物分類 技能検定	14名 4級 19名	26名	高校理科 4名 水産2名 3級 9名				
学芸員数	食品衛生管理者・食品衛生監視員	教育職員免許教科、 生物分類 技能検定									
14名 4級 19名	26名	高校理科 4名 水産2名 3級 9名									
達成度	S										
改善課題											
根拠資料	①平成30年度第11回大学教育センター運営委員会議事録資料 ②平成30年度教務課資料										
次年度の課題と改善の方策											
点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。										
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学科における就職支援・指導はクラス担任・卒業研究指導教員を中心に行い、就職委員がそれをバックアップする体制をとっている。 ・進路探求系科目の「キャリアデザインⅠ」「進路探求Ⅰ」「進路探求Ⅱ」を通じて、学生の進路決定をサポートしている。 ・就職ガイダンスは、全学的な方針に基づいて行っており、主として3年次生に対してガイダンスを年7回、セミナーを年3回実施している。また、3年次の12月に保証人、学生、卒業研究指導教員との3者面談による就職懇談会も開催している。 ・過去4年間、就職希望者のほぼ90%以上が内定を得ている実績からみて、適切に実施されていると判断している。 										
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。 										

年度報告	・就職希望者のほぼ90%以上が内定を得ている実績からみて、適切に実施されていると判断した。また、学芸員資格取得者14名の中から4名の学生が水族館に就職が決まった。さらに資源利用育成コース分野から1名の学生が愛媛県水産試験場に就職が決定した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度第11回大学教育センター運営委員会議事録資料 ②平成30年度就職課資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	・本学では学校法人福山大学奨学制度を設けている。また学生課を通じて日本学生支援機構(JASSO)奨学金の事務手続きをサポートしている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	今年度も福山大学奨学生制度および日本学生支援機構(JASSO)の奨学金によって経済的支援を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2018
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	・ハラスメントの防止については、2010(平成22)年2月に制定した福山大学キャンパス・ハラスメント防止等に関する規定に基づき2010(平成22)年3月に確立した「キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」に従って行っている。 ・生命工学部には2名のハラスメント相談員(そのうち1名は因島キャンパス常駐の教員)を置き、ハラスメント相談窓口として機能させている。 ・上記のガイドラインについては新入生や在学生対象のオリエンテーションの際に書面で配布するなどして学生に周知させている。
年度目標	・基本的に現状を維持する。 ・学科内でハラスメントが発生した場合には、「キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」に従って対応を行う。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②オリエンテーション配布資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・福山市今津地区自治会連合会が中心になって行っている本郷川の環境美化活動に協力し、2012(平成24)年度から毎年、本学科の教員・学生が地域住民と共に本郷川の清掃活動に参加してきた2015(平成27)年度は前日の降雨により参加できず)。 ・2015(平成27)年度から、本学科の学生が今津学区秋祭りに参加している。
年度目標	・今年度も、地域からの要請に応じて本郷川の清掃活動や今津学区秋祭りなどのイベントに学科の教員や学生が参加する。
年度報告	・7月1日に地域からの要請に応じて本郷川の清掃活動に学科の教員や学生が参加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度本郷側夏季一斉清掃の記録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科は福山キャンパスの16号館に6研究室、因島キャンパスの1号館と3号館に3研究室を置き、1学年の定員100名(収容定員400名)に対して充分な面積の校地・校舎を有している。 ・因島キャンパス(内海生物資源研究所)には、沿岸域で教育研究活動を行うことができる水質調査船(第2爽風丸)を備えている。 ・16号館には2015(平成27)年以前の1学年の定員であった80名の学生の実験・実習並びに卒業研究を実施するのに必要な数の、また因島キャンパスには定員の半数程度(約40名)の学生の実験・実習及び30名程度の卒業研究を実施するのに必要な数の施設・設備をそれぞれ備えている。 ・16号館の校舎は老朽化が進んでいたことから、2014(平成26)年度にトイレ設備の更新ならびに廊下・階段の床面の張替えを行った。また、2016(平成28)年度に16号館の教員用および来客用シューズボックスの更新、ならびに廊下・階段部分の内壁面の塗替えを行った。 2017(平成29)年度予算要求においても、16号館および因島キャンパス1~3号館の老朽化した施設・設備の修繕を申請し、認められた。 ・近年連続して定員を上回る入学生を迎えるにあたり、特に因島キャンパスにおいて学生の収容スペースの不足が深刻化していたこと、及び2016(平成28)年に入学定員を80名から100名に増加する予定となったことを受けて、2015(平成27)年度に因島キャンパスに研修室を含む4号館1棟を新設した。
年度目標	・16号館および因島キャンパス1~3号館の老朽化した施設・設備の修繕を申請する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・2019(平成31)年度予算要求において、16号館および因島キャンパス3号棟の老朽化した施設・設備の修繕を申請し、認められた。 ・6月に16号館の外壁面の塗替えを行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度予算要求書 平成30年度施設設備予算要求書 海洋生物科学科
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	・ICT教室は履修指導や学生実験などに活用している。本学の実習・実験室ならびに因島キャンパスの実習室は1年次～3年次に開講される学生実験(海洋基礎実験、海洋生物学実験(1)および(2)、臨海実習、資源利用育成実習、フィールド生態環境実習、アクアリウム科学実習、水産食品科学実習)および4年次の卒業研究でそれぞれ積極的に活用されている。また、図書館は学生が授業の課題や学生実験のレポート作成、卒業研究に必要な文献検索などを行う上で利用されている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学生実験・実習書 海洋生物学科
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	・施設・整備のバリアフリー化は行っていない。学生の人数が多いことから学科の施設にアメニティースペースを確保することができない。
年度目標	・現状では施設のスペースを確保できないため、16号館および因島キャンパス1～3号館の老朽化した施設・設備の修繕を優先する。
年度報告	2-5-①に記載した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度予算要求書 平成30年度施設設備予算要求書 海洋生物学科
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	・本学科では、2012(平成24)年以降在籍学生数が収容定員の1.3倍を上回っていたことから、2016(平成28)年に入学定員を80名から100名に増加した。そのような状況を受けて、1学年につき100名の学生を収容するためのスペースの確保とアメニティの向上を目的とした施設・設備の改修・更新、学生数に対応した学生実験・実習を行うための機器の補充、並びに老朽化した実験機器の更新をメインに整備を進める方針で次年度の予算要求を行っていくことを学科会議で決定しており、現状では適切と考えている。
年度目標	・1学年につき100名の学生の授業を行うことを目的とした施設・設備の改修・更新、学生数に対応した学生実験・実習を行うための機器の補充、並びに老朽化した実験機器の更新をメインに整備を順次進めていく。
年度報告	・学生実験・実習、卒業研究のための人工気象器や教育用生物顕微鏡の更新、地曳網の新規購入を行った。 ・因島キャンパス3号棟 水産増殖学研究実験室照明器具等配線の撤去およびSPF室 コンセントの漏電点検および防水コンセントへの修繕を行った。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①平成30年度予算要求書 平成30年度施設設備予算要求書 海洋生物科学科
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 各研究室で薬品庫内に保管している試薬瓶等が地震発生時に倒れないよう対策をとっている。 火災や地震が発生した際の避難訓練等は、2017年10月27日に全学的に実施された防災訓練に本学科の教員と学生が参加した。 毎年、消防法による学内の防災の際に指摘されていた16号館廊下及び階段に設置していた観賞魚飼育水槽は、2014(平成26)年度にほぼ全て室内に移動した。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に現状を維持するが、大学全体の方針に従い必要な措置をとる。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 安全・衛生については、大学・学部の安全衛生委員会に学科から1名の委員が参加しており、全学的な方針のもと、学科の安全・衛生対策を統括している。有機溶剤の使用については各学生実験室及び各研究室において掲示物で注意を喚起し、毒劇物については鍵のついた薬品庫に保管し、使用保管記録をつけて使用している。 爆発物の原料となりうる化学物質については、定期的な数量の確認と簿冊等による確実な管理、施錠設備のある保管場所への保管と確実な施錠、および学生等のみでの保管場所への立入り及び取り扱いの禁止を徹底している。 全学の安全衛生委員会からの要請により作業環境測定のための特定化学物質・有機溶剤の使用状況調査を行った。 16号館の2研究室において、有機溶剤の仕様に関わる作業環境測定を行った。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 安全衛生委員会の化学物質管理規定制定とリスクアセスメントのマニュアルに従って実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①爆発物の原料となりうる化学物質の管理簿 海洋生物科学科
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 学科内に適切な安全管理教育を実施していない。また、災害時避難マニュアルを作成していない。 火災や地震が発生した際の避難訓練等は、2017年10月27日に全学的に実施された防災訓練に本学科の教員と学生が参加した。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 大学全体の方針に従い、必要な措置をとる。

年度報告	・災害時の安否確認など、福山大学危機管理基本マニュアルに従って実施している。 ・1年次の海洋生物基礎実験において「実験における安全管理」について講義した上で実験を実施している。 ・本学の教職員・学生の安否確認の訓練が2回実施された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学危機管理基本マニュアル ②海洋基礎実験書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	・本学科単独では、特に学生支援に対する学生の意見等を組み上げる仕組みは用意していない。 ・全学的には、卒業生アンケートの中で教職員による学生支援体制について満足度を測る調査を行った。 ・認証評価、生命工学部外部評価、卒業研究のルーブリック評価などに時間を取られ、今年度も学生支援に対する学生の意見を汲み上げるための学科独自のアンケート調査を実施することができなかった。
年度目標	・昨年度にできなかった、学生支援に対する学生の意見を汲み上げるためのアンケート調査を実施する。
年度報告	・全学的には、「学生による授業評価アンケート」、「卒業生アンケート」、「共通教育(1年生)アンケート」をそれぞれ実施した。 ・今年度も学修支援に対する学生の意見を汲み上げるための学科独自のアンケート調査を実施することができなかった。
達成度	B
改善課題	・学生に対してクラス担任・研究室指導教員による相談、アドバイス、指導をそれぞれ行う。
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	・学生の心身の健康保持・増進および安全・衛生への配慮は主に保健管理センターとそこに所属する心理カウンセラーが担当しており、それらからの要請に応じてクラス担任・卒業研究指導教員が学生への対応を行っている。
年度目標	・基本的に現状を維持する。 ・定期健康診断の受診率を高めるために、担任が定期健康診断を受診するよう指導を徹底する。
年度報告	・担任が定期健康診断を受診するよう指導を徹底した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①平成30年度保健管理センター資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	・本学科単独では、特に学修環境に対する学生の意見等を組み上げる仕組みは用意していない。
年度目標	・学生による授業評価アンケート評価をもとに学生の意見や要望を抽出していきたい。
年度報告	・全学で実施している、「学生による授業評価アンケート」の評価結果をもとに各教員が学修環境の要望を反映させる方策を検討した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中長期計画	本学科は現行のカリキュラムで多くの受験生を集め定員を確保できているので当面はカリキュラムを大幅に変更する予定はないが、学年進行に沿って基本的に4年毎にカリキュラムを点検・評価し、生命工学部全体の方向性、及び社会や受験生のニーズに対応してさらなる魅力を発信できる新カリキュラムを策定して行きたい。 中目標： <ul style="list-style-type: none">・2017(平成29)年度から適用する新カリキュラムの学年進行が終了する4年後をめどに同様の点検・評価作業を行い、福山大学教育プログラムの考え方に基づいて本学科の教育プログラムを継続的に改善していく。・成績分布、取得単位数分布などのデータを蓄積していき、入学年度別の比較を可能にする。・学修成果を測定するための指標の開発・導入を進める。・福山大学教育プログラムの考え方沿って、アクティブラーニング、ICT活用教育、Cerezoを活用した学生の予習・復習の促進などの手法の導入を進め、本学科の教育プログラムを継続的に改善していく。・教育成果を検証し、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけていくしくみを確立する。 小目標： <ul style="list-style-type: none">・本学科の教育目標、ディプロマ・ポリシー、及びカリキュラム・ポリシーが学生に充分に周知されているかどうかについて、アンケート調査による検証を行う。・3年次配当科目「専門英語」の教育内容や教育方法について検証し、改善を図っていく。・アセスメント・ポリシーを策定する。・学修成果の可視化を試みる。・各コースの学修成果の客観的指標となりうる資格・検定試験について、学科教員による正課内・正課外の受験サポートを充実させる。・アクティブラーニングの手法を取り入れる授業を増やす。・Cerezoを活用する授業を増やす。・ICT活用教育の導入を図る。・「卒業研究」において学科で策定した、ループリック表を用いた評価方法・評価基準を導入し、その適切性について検証を行い、改善を図っていく。

中点検項目 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定	
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは大学HPや学生便覧2018、大学ポートレート(私学版)などを通じて広く社会に公表している。 入試説明会、大学見学会、高大連携授業、就職懇談会、保証人を対象に開催している教育懇談会など様々な場面において、学科の目的を説明し、ディプロマ・ポリシーの周知に努めている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①学生便覧2018 ②大学HP ③大学ポートレート(私学版)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	学科内に作業部会を組織して検討した上で、各基準の原案を作成し、学科会議において単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準を提案・承認した。さらにその基準案を学部教授会で提案し、承認した。さらに大学で定めている所定の手続きを経て各基準を策定している。ループリック表を用いた修了認定基準以外は学内外に周知している。
年度目標	・これまでの策定方法に従って、修了認定基準(ループリック表を用いた評価基準)を導入し、その適切性について検証を行い、改善を図っていく。
年度報告	・修了認定基準(ループリック表を用いた評価基準)を導入し、実施した。昨年度はトライアルであったが、今年度が初年度であることから年度ごとにその適切性について検証を行い、改善を図っていく。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度12月、1月定例学科会議議事録 ②平成30年度大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科では、全学的な方針に従い、2年次から3年次への進級及び3年次から4年次への進級について、必要な単位数などの基準を設けている。 ・卒業要件は厳格に守られており、進級基準についても厳守する方向が全学的に打ち出されている。 ・進級基準については、卒業要件の変更に対応して、あるいは全学的な方針に従って、これまでに何度も設定し直してきた。 ・2017(平成29)年度に受審した生命工学部外部評価において、本学科を含む生命工学部の教育内容・方法・成果について、7名の外部委員全員から3つのポリシーと教育内容が適切に設定されていると評価された。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書 ②学生便覧2018
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科では、学科の教育目的並びにディプロマポリシーと整合性をもったカリキュラムポリシーを定めている。 ・全学的な手続きに従い、2016(平成26)年度に学科のカリキュラムポリシーを改訂した。 ・大学便覧2017や大学HPおよび大学ポートレート(私学版)を通じて学内外に周知している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学便覧2018 ②大学HP ③大学ポートレート(私学版)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科では、ディプロマ・ポリシー中に卒業時までに修得を期待する学習成果を具体的に定めている。 ・各学年で修得すべき学修成果を中目標としてカリキュラム・マップ(学生便覧2017、p108)上に明示していることから、カリキュラム・マップとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がある。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①ディプロマ・ポリシー(学生便覧2018、p124) ②カリキュラム・マップ(学生便覧2018、p128)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	・本学科のカリキュラムは年次の進行に応じて体系的に学べるように構成されており、その教育プログラムをカリキュラムマップに示している。 ・本学科のカリキュラムマップを「海洋生物科学科教育プログラム」として学生便覧に明示しているほか、大学HP上で公開している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①カリキュラム・ポリシー(学生便覧2018、p125) ②カリキュラム・マップ(学生便覧2018、p128)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	・教養教育科目についてはA群(自然と科学)、B群(社会構造と生活)、C群(歴史と文化)、D群(思索と創造)、E群(芸術と健康スポーツ)、F群(地域学)の中から3つ以上の群にまたがり、11単位以上を選択することが卒業に必要な条件である(ただしE群の科目を必ず含む)。教養教育を十分に実施しているかは、検証していない。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。全学的には、「共通教育(1年生)アンケート」を実施し、学生による評価を求めた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	本学科の専任教員がアクティブラーニングを活用した授業方法の導入を進めている。 ・2016(平成28)年度には、本学科の専任教員3名が学芸員養成課程科目や実験実習科目、あるいは卒業研究においてICTを利用した教育を実施した。 ・学生の自主的な学修を促すため、一部の科目においてインターネットを介した学修支援システムCerezoの活用を始めている。
年度目標	・アクティブラーニングの手法を取り入れる授業を増やす。 ・Cerezoを活用する授業を増やす。 ・ICT活用教育の導入を図る。

年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 一部の教員(4名)が講義および博物館実習においてアクティブラーニングを活用した。 Cerezoの授業への導入が進み、一部の教員(2名)がセレッソを活用した。 本学科の専任教員2名が、学芸員養成課程科目や卒業研究においてICTを利用した教育を実施した。
達成度	B
改善課題	
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ①専任教員におけるH29年度実績 ②教務の手引き2018 ③シラバス2018
次年度の課題と改善の方策	<ul style="list-style-type: none"> 次年度には、いっそうセレッソの活用を進め、学生の主体的な学修への取り組み姿勢を引き出すよう努力する。 本学科のICT活用教育を専門とする教員を中心に、今後もICT活用教育の導入を進めいく。
d	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 本学科では、ディプロマ・ポリシー中に卒業時までに修得を期待する学習成果を具体的に定めている。 各学年で修得すべき学修成果を中目標としてカリキュラムマップ上に明示している。以上のことからディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えている。その整合性については検証していない。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業研究」において学科で策定した、ループリック表を用いて今年度の卒業判定の評価を実施した。ディプロマポリシーと卒業判定の整合性があると考えている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ①卒業研究に対するループリック(海洋生物科学科) ②ディプロマ・ポリシー(学生便覧2018、p124)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	<p>① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。</p>
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 全学的な手続きに従って、2017(平成29)年度に「学位授与の方針に掲げる資質の修得度アセスメント表」を策定し、今年度卒業生について学位授与の方針に掲げる資質の習得度アセスメントを試行した。3月の学科会議で学科内FDから提案された、ループリックによる教育成果のアセスメントの改善案が承認された。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業研究」において学科で策定した、ループリック表を用いた評価方法・評価基準を導入し、その適切性について検証を行い、改善を図っていく。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> 「卒業研究」において学科で策定した、ループリック表を用いて今年度の卒業判定の評価を実施した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①卒業研究に対するルーブリック(海洋生物科学科)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習成果を評価する指標として「学生による授業アンケート」を導入している。 ・学生による授業評価アンケートの結果を受けて、担当教員が学生に対するフィードバックを行うとともに、授業の改善策を含む「授業評価・自己点検アンケート結果に対する報告書」を作成し、大学教育センターに提出している。学科長はこれを受けて学科としての報告書を纏め、同じく大学教育センターに提出している。 ・「学生による授業評価アンケート」の結果を学科内で分析し、各コースの担当教員による会議や学科会議での検討を経て、必要と判断すれば授業内容や方法の変更、カリキュラム変更などの検討を行っている。 ・卒業生アンケートの結果を受けて、満足度が低い項目を抽出し、必要に応じて授業内容やカリキュラムの再検討を行っている。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・全学的には、「学生による授業評価アンケート」、「卒業生アンケート」、「共通教育(1年生)アンケート」をそれぞれ実施した。基本的に現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営委員会資料 ②平成30年度学生による授業評価アンケート実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員**領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

中長期計画	<p>本学科の教育研究組織は、資源利用育成分野、フィールド生態環境分野、アクアリウム科学分野、及び水産食品科学分野の4分野、9研究室で構成しており、学科の教育内容(現行カリキュラム)ともリンクした形となっている。また、9研究室のうち、瀬戸内海のフィールド、海洋生物の大規模飼育設備、あるいは水族館設備を教育研究に活用している3研究室はこれらの環境・設備が整っている因島キャンパスに、それ以外の6研究室は福山キャンパスに置き、相互に連携して教育研究を推進している。生命工学部全体の方向性と整合性をとるために将来的に若干のモディファイを行う可能性はあるが、今後も基本的にこの体制を維持したい。</p> <p>中目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学キャンパスからバスで30分程度の近距離に位置する因島に上記のような環境と設備を有するもう一つのキャンパスを持っていることは、他大学の海洋系学部学科に対するアドバンテージとなっており、学生募集に大きく貢献していると考えられる。そのため、今後は特に因島キャンパスについて人事面の補強をお願いし、同キャンパスの環境と設備を活用した教育研究をより一層充実させたい。 <p>小目標：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福山大学生命工学部教員選考基準内規の改訂を行い、学位授与方針およびカリキュラムを前提とした教員像を明らかにする。 ・2015(平成27)年度に承認されたがまだ採用できていない「フィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員」1名の継続採用人事を要望する。 ・水産食品科学コースに、現状では「水産食品の食品加工・成分分析」を専門分野とする教員がいないため、この分野の女性教員を補強したい。
	2018年度

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学長がバランスにより、学長の権限と責任が明確になったことを周知している。 ・学科長と学科主任1名を置き、学科における教育・研究に関する校務を統括させている。 ・人事以外の案件を学部に上げるに当たっては、すべて学科の専任教員全員を構成員とする学科会議において審議・承認した上で学部長に上申している。 ・人事案件については、学科の専任教授のみを構成員とする学科教授会において審議・承認した上で学部長に上申している。 ・因島キャンパスにおける本学科の運営・管理については、内海生物資源研究所長(因島キャンパス学科長兼任)と同研究所の教員(本学科と兼任)をメンバーとして含む学科会議において方針を決定している。 ・学長、学部長、学科長は、それぞれの段階で教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していると考えられる。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度定例学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学科レベルの内容についてのみ記載すると、校務の実行は学科が統括し、教務、学生、入試、就職、広報、社会連携、キャリア形成支援、自己評価など種々の委員会委員を選出し、役割を分担している。 ・生命工学部教授会で審議・決定された事項は、学科の専任教員と助手をメンバーとする学科会議と学科の専任教授をメンバーとする学科教授会において調整した上で実施している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度定例学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学生課、教務課、就職課の職員スタッフと密に連携して学科運営を行っている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・学科長、学科主任、各種委員会委員、担任が職員スタッフと密に情報交換・伝達を行い、学科運営を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各種委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・福山大学教員選考基準の項目に記載した各基準の中で、教授、准教授、講師、及び助教について、それぞれのレベルで人格識見、教育能力、及び研究能力を要求している。 ・平成30年3月31日時点での本学科の専任教員の年齢構成は、31歳から40歳が0%、41歳から50歳が41.6%、51歳から60歳が41.6%、61歳から70歳が16.6%であり大きな問題はないが、徐々に高齢化が進行していること、及び教員の年齢が特定の年齢帯に偏っていることは若干問題である。 ・現状、専任教員12名は全員男性である(助手3名は全て女性)。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き継続人事をお願いするフィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員1名については、40歳未満の人物を採用するよう努力する。 ・水産食品科学コースに、「水産食品の食品加工・成分分析」を専門分野とする女性教員を補強したい。

年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・退職に伴い、フィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員1名の採用人事を実施し、認められた。 ・退職に伴い、アクアリウム科学分野を専門とする教授の退職に伴って水族館勤務経験のある教員1名の10月1日付けの採用人事を実施し、認められた。 ・魚病学を専門とする教授が海洋生物科学科の構成員ではなくなったため、急遽、魚病学を専門とする教員1名の採用人事を実施し、認められた。 ・「水産食品の食品加工・成分分析」を専門分野とする女性教員1名の採用人事を年度内に行なうことができなかつたため、1名の継続採用人事を要望している。 <p>平成31年3月31日時点での本学科の専任教員の年齢構成は、徐々に高齢化が進行しており、女性が不在である。</p>
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度生命工学部人事教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年3月31日現在の学科の専任教員数は12名で、うち教授が7名である。本学科の教員数と教授数は大学設置基準を満たしている。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に採用できなかつた「フィールド生態環境分野と資源利用育成分野の境界領域を専門分野とする教員」1名の継続採用人事を要望する。 ・水産食品科学コースに、「水産食品の食品加工・成分分析」を専門分野とする女性教員を補強したい。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・年度目標に従つて2名の教員の退職に伴う2名の教員と新規の水産食品分野1名からなる3名を要望した結果、来年度新規採用教員が2名、平成30年度10月採用の教員1名の計3名が採用された。水産分野の女性教員は平成31年度に継続して公募することになったが、新たに魚介類生体防御学の専門分野の適任者による教員採用が認められた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①生命工学部人事教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・2017(平成29)年度の学科FDは「平成29年度に実施した卒業研究のループリック評価の課題・改善」をテーマとして行い、その研修成果を2018(平成30)年度の本学科の卒業研究評価のためのループリック表の策定に活かした。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、必要に応じて学科内FDを積極的に開催していく。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・2018(平成30)年度の学科FDは「1学年130名を収容するための学科体制の構築(学生実験の運用、施設および因島キャンパス増改築)」をテーマとして行い、その研修成果として2019(平成31)年度の1年生および2年生の学生実験の担当者、実施内容を作成するとともに因島キャンパス増改築案(施設・設備等)を策定した。 ・2018(平成30)年度の学科FDは「内海生物資源研究所の水族館の管理運営業務」をテーマとして行い、その研修成果として2019(平成31)年度の年間スケジュール案および水族館の運営目標・計画を策定した。
達成度	S

改善課題	
根拠資料	①因島キャンパス増改築案 2019年度の年間スケジュール案および水族館の運営目標・計画
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	・今年度は全学レベルでのSD研修会は開催されていない。今後、大学運営に関わる教職員の資質・能力向上のための教職協働の取り組みを実施する必要がある。
年度目標	・大学運営に関わる教職員の資質・能力向上のための教職協働の取り組みを検討する。
年度報告	・平成30年度に5回のSD研修会に参加した。 ・学科で水族館の運営および学生増に伴う施設・学修環境の整備のためのSD研修会を開催した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度大学教育センター運営委員会活動報告書教育活動部門 ②学科SD研修会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のためにICTの活用を推進していますか。
現状説明	・ICTを活用した「学生ポータルシステム」および「学習支援システム」を学科教員全員が利用している。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	・専任教員の研究費の確保は概ねできている。 ・1学年の学生数が100名を超えるという状況下で、本学科は教員1名あたりの学生数(ST比)が私立農学系学部の平均値を約10名上回っており、クラス担任としての用務や就職活動支援等の教員の負担が非常に大きくなっていること、委員会数が多く各種委員会委員としての用務も負担になっていることから、充分な研究専念時間の確保が難しくなっているのが現状である。

年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	B
改善課題	・1学年の学生数が100名を超えるという状況下で専任教員やクラス担任の教育上の負担が大きいため、研究時間の確保が難しい。
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	・1学年の学生数が100名を超えるという状況下で専任教員数を増やし、クラス担任制を1学年2クラスから3クラスにする。
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・学術研究倫理審査委員会に、ヒト、動物、微生物、遺伝子などを扱う研究分野に対応する部会を備え、各部会長が委員を招集し学内規定に従って委員会で判断する体制が整備されている。学内で行われる教育研究活動で、倫理に関わるものはすべて本委員会で事前に審査され、さらに進捗状況報告が求められている。また、委員会ごとに研究者に対する教育訓練を実施し、規定の周知を図っている。 ・福山大学「研究関連ガイドブック」が作成され、教職員に配布されている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員がその研究室に所属する4年次生や大学院生にそれぞれ研究テーマを与え、その研究を遂行するのに充分な研究費が執行されている。 ・本制度の適切性の検証については、学科単位では行っていない。
年度目標	・基本的に現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①特になし
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・公的研究費を適正に運営・管理するためのガイドライン「研究関連ガイドブック」が学科の全教員に配布され、周知されている。 ・2016(平成28)年度には、学科教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けたほか、生命工学部で開催した研究倫理教育を学科教員全員が受講した。 ・学内に不正防止計画推進室が設置されており、学内における教員に関する不適切なことがあった事項について調査をし、適切な処置が行われるように運営されている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・2018(平成30)年度に、学科教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けたほか、生命工学部で開催した研究倫理教育を学科教員全員が受講した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	① eラーニング修了証明書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中長期計画	PDCAサイクルを適切に機能させ、本学科の教育研究活動の質を向上を目指す。学科の自己点検評価については毎年実施し、本学科を含む生命工学部の外部評価をおおよそ5年ごとに実施する。 中目標： ・生命工学部及び本学科において自己点検・評価を行うシステムを確立し、日常的にPDCAサイクルを稼働させる。 小目標： ・日常的な点検・評価活動にあたる組織として、学科会議の下部に学科自己点検評価委員会を新たに組織し、稼働させる。 ・生命工学部自己点検評価委員会及び学科の自己点検評価委員会を中心に、昨年度に受審した生命工学部の外部評価委員から出された問題点を整理・検討する。 ・必要に応じて学部FD研修会や学科内FDを開催する。

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・福山大学自己点検評価規程第21条の規定に基いて、年度初めに立てた目標の達成度を点検・評価する学科の自己点検報告書を作成し、福山大学自己点検評価実施小委員会に提出するというシステムを2014(平成26)年度から稼働させている。学科の自己点検評価報告書は、年度ごとに学科長が作成し、学科会議ならびに生命工学部自己点検評価委員会の承認を経て大学評価室に提出している。 ・上記の点検評価活動については、生命工学部内に組織した学部自己点検評価委員会が主導して行う。 ・今後は、おおよそ5年毎に受審することになっている生命工学部外部評価において、生命工学部及び3学科の様々な活動について学部自己点検評価委員会で検証した上で、学部の自己点検評価報告書を作成し、外部委員の評価を受けた。

年度目標	・引き続き、福山大学自己点検評価規程の規定に基いて、学科の自己点検評価を行っていく。
年度報告	・中長期計画、現状説明、目標設定、達成度、次年度の課題と改善の方策の点検項目にそれぞれ記載し、平成30年度自己点検報告書を提出した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度自己点検報告書 ②平成29年度福山大学生命工学部外部評価報告書 ③福山大学自己点検評価規定 ④福山大学工学部自己点検評価委員会細則 ⑤福山大学工学部外部評価委員会細則
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	・教育課程においては、各教員の担当する科目の中での教育内容・教授方法の改善について、学生による授業評価アンケート結果を受けて各教員に学生へのフィードバックを義務付けているほか、今後の改善策を含めた点検報告書を提出させ、学科長がそれらの報告書をまとめ、学科としての報告書を作成・提出している。 ・2015(平成27)年度から、学科で作成した前年度の自己点検評価報告書において課題として上がった主な項目について、学科会議において担当者を決めて改革・改善に向けた対応を行っている。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成29年度福山大学自己点検評価報告書 ②平成30年度学生による授業評価アンケート結果 平成30年度学生による授業評価アンケート実施報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	・IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていない。
年度目標	本学にIR室が新設されたため、学科の教育活動に関する資料のデータベース化については今後、IR室の方針に従って行っていく。
年度報告	・IR室による「Karin」を用いて学科の教育活動に関する資料のデータベース化を行う予定であったが、「Karin」の整備中のため、実施していない状況である。また、学科教員の中でデータを共有して、十分な調査・データの収集と分析を行っていない。
達成度	B
改善課題	

根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	「Karin」を用いて学科の教育活動に関する資料のデータベース化を行う。

2018年度

生命工学部 海洋生物科学科

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 基本的に4年毎に行っているカリキュラムの改訂にあたっては、学科内に新カリキュラム検討部会を組織し、同部会において全学的な手続きに沿って学科の目的、教育プログラム並びに各ポリシーの点検・評価を実施している。同部会において点検・評価の結果、策定された改定案については、学科会議並びに学部教授会での議論を経て、承認された場合には教務委員会に上申され、そこで検証を受けたのち最終的に評議会で承認されるシステムとなっている。 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)について、その機能性を検証していない。
年度目標	・現状を維持する。
年度報告	・現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> 本学で制定している「福山大学キャンパスハラスメントの防止等に関するガイドライン」「学術研究における倫理審査について」「男女共同参画宣言」「研究関連ガイドブック」「個人情報管理基本方針」が教員に周知され、意識の徹底が図られている。 本学の全教職員に対して、コンプライアンス教育及び研究倫理教育研修会の受講が義務付けられている。2016(平成28)年度には、学科教員全員が生命工学部で開催した研究倫理教育を受講した。 全学的な手続きに従って、学科教員全員が研究倫理に関わるeラーニングを受講することによって、コンプライアンス意識について検証を受けた。
年度目標	・基本的に現状を維持する。 ・コンプライアンス意識を高めることを目的に全学的に開催されるSD研修会等に、学科教員が積極的に参加する。
年度報告	・現状を維持し、コンプライアンス意識を高めることを目的に全学的に開催されるSD研修会等に、学科教員が積極的に参加した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度学科会議議事録 ②FD研修会参加者名簿
次年度の課題と改善の方策	

基準7. 福山大学プランディング戦略**領域：本学独自基準と点検・評価**

中長期計画 <p>本学科の目的を「海洋生物科学科では、海を身近なものとして利用し守ってきた知恵に学び、広く社会で活躍できる教養と視野を持ち、実践する力のある社会人を養成することを目的としている。1.食品の開発、衛生管理、製造等の分野で活躍でき、特に水産系食品に強い人材を育成する。2.持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材を育成する。3.生態系に関する知識および調査の技能を活用して、持続可能な社会の構築に向けて企業・研究機関等の環境部門で活躍できる人材を育成する。4.水生生物の生理、生態に関する知識や飼育、展示、繁殖に関する技能を活用して、種の保存や希少種の保護を視野に含めた飼育・展示・啓発活動を行う施設、研究機関、企業等で活躍できる人材を育成する。」と明確に定めている。</p> <p>瀬戸内海中央部・芸予諸島の周辺浅海域における藻場・干潟および周辺生態系の多面的な機能を明らかにし、その機能を応用した産業支援と教育を推進することによって上記の本学科の目的を遂行していく、本学科の・教育・研究の質の向上を目指す。</p> <p>中目標 ・研究プランディングに関連して立ち上がったプロジェクト研究「瀬戸内の里山・里海における生態系機能の解明に向けた研究拠点の形成」プロジェクトに学科教員4名が参加しており、このプロジェクトを核として、さらに学部間あるいは研究室間連携研究をさらに発展させたい。</p> <p>小目標 ・年度計画に従って、平成29年度文部科学省「私立大学研究プランディング事業」に採択された「瀬戸内海 しまなみ沿岸生態系に眠る多面的機能の解明と産業支援・教育」の各研究テーマである生態系の解明、生物多様性の保全、産業支援・教育の研究成果を報告する。</p>	2018年度 生命工学部 海洋生物科学科
中点検項目 7-1. 福山大学プランディング戦略の推進	
点検項目 ① 福山大学プランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。	
現状説明 •学部教授会において福山大学プランディング戦略 (ver. 2018) の概略について説明がなされた。 •2018年3月16日の大学院FDにおいて研究プランディングの事業概要が本学科の3名の教員によって紹介された。	

年度目標 •研究プランディングの研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組ませ、卒業研究の成果を発表させることにより学科の学生に大学プランディング戦略 (ver. 2018) の概略について周知させる。	2018年度 生命工学部 海洋生物科学科
年度報告 •福山大学プランディング推進のための研究プロジェクトは、学科内に掲示し、さらにOffice365を通じて学科教員に連絡し、周知に努めている。 •研究プランディングの研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究の成果を発表した。 •「里海・里山プロジェクト」の展示開発を研究テーマで4年生が発表した。 以上の卒業研究の取り組みから学科教員、1年生～4年生の海洋生物科学科の学生に福山大学プランディング戦略の概略を周知することができた。	2018年度 生命工学部 海洋生物科学科
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 福山大学はプランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からプランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	・2016(平成28)年度から、本学科の教員がシロギスの養殖技術開発を題材とした地域の企業との連携による共同研究を実施した。このような产学連携による研究プロジェクトを通じて地域の水産業および地元企業の活性化に貢献している。
年度目標	・年度計画に従って私立大学研究プランディング事業を推し進めていく。
年度報告	・テッポウギスプロジェクトの研究・技術開発を進めるとともに、4月に「しまなみ寿司」で販売・評価に着手した。 ・新たな取り組みとして福山市の仲卸業者クラハシ(株)と連携して沖縄での量産体制に着手した。 ・内海生物資源研究所の水族館の展示水槽においてシロギスの展示を行っている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度福山大学内海生物資源研究所運営委員会4月議事録 ②大学HP(しまなみテッポウギスプロジェクト) ③平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	・2016(平成28)年度から、本学科の教員がシロギスの養殖技術開発を題材とした地域の企業との連携による共同研究を実施した。このような产学連携によるプロジェクトを通じて地域の水産業および地元企業の活性化に貢献し、さらに持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材を育成することを目指している。
年度目標	・年度計画に従って私立大学研究プランディング事業を推し進めていく。
年度報告	・上記の成果を、平成30年度日本水産学会秋季大会で発表した。 ・研究プランディングの研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究の成果を発表した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・備後地域地場産振興センターとの連携協力による事業として第16回生命工学部公開授業(講義の部1回、及び楽しいバイオ実験1回)を実施し、本学科の教員が講演1件、及びバイオ実験テーマ1件を担当した。 ・本学科の教員が尾道特別支援校しまなみ分校と連携した創作活動交流、福山市立西小学校と連携した学習支援活動、及び社会福祉施設「あづみの森」と連携した交流学習、尾道市立因北中学校と連携したふるさと推進事業の「総合的な学習の時間」の支援などを行った。近隣の小・中・高等学校と連携協力事業の一部の成果は卒業研究発表を行った。 ・本学科の教員がシロギスの養殖技術開発を題材とした地域の企業との連携による共同研究2件を実施した。 ・シロギスの養殖技術開発の成果は学会発表や大学院研究発表並びに卒業研究発表を行った。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・備後地域地場産振興センターとの連携協力による事業としての生命工学部公開授業は今年度も実施する。 ・シロギスの養殖技術開発は研究ブランディング事業として実施する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・シロギスの養殖技術開発の成果を平成30年度日本水産学会秋季大会で発表した。 ・シロギスの養殖技術開発の研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究発表を行った。 ・尾道特別支援校しまなみ分校と連携した水族館学習、図書館、幼稚園、水族館と連携した学習支援活動を通じて地域支援をそれぞれ行い、これらの成果は卒業研究発表を行った。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。のために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	2017(平成29年度)から本学科の教員が研究ブランディングの研究テーマである、「生態系の解明」と「産業支援・教育」にそれぞれ取り組んでいる。これらの研究を通じて、生態系に関する知識および調査の技能を活用して、持続可能な社会の構築に向けて企業・研究機関等の環境部門で活躍できる人材の育成、ならびに持続可能な資源管理を見据え、増養殖に関する知識と技能を活用し、水産業で活躍できる人材の育成が期待される。今後、卒業生が備後圏域の環境関連企業および水産業の分野で活躍し、貢献しているか、検証していく必要がある。
年度目標	・年度計画に従って私立大学研究ブランディング事業を推し進めていく。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・本学大学院を修了した技術職員が中心となって「テッポウギスプロジェクトの研究・技術開発」を進めるとともに4月に「しまなみ寿司」で販売・評価に着手し、上記の成果を日本水産学会秋季大会で発表した。 ・平成30年度の卒業生の就職」が愛媛県水産試験場に決まっており、「地域の中核となる幅広い職業人」として今後の地域貢献に期待ができる。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・本学科の教員が尾道特別支援校しまなみ分校と連携した創作活動交流、福山市立西小学校と連携した学習支援活動、及び社会福祉施設「あずみの森」と連携した交流学習、尾道市立因北中学校と連携したふるさと推進事業の「総合的な学習の時間」の支援などを行った。近隣の小・中・高等学校と連携協力事業の一部の成果は卒業研究発表を行った。 ・本学科の教員がシロギスの養殖技術開発を題材とした地域の企業との連携による共同研究2件を実施した。 シロギスの養殖技術開発の成果は学会発表や大学院研究発表並びに卒業研究発表を行った。
年度目標	・シロギスの養殖技術開発は研究プランディング事業として実施する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・シロギスの養殖技術開発の成果を平成30年度日本水産学会秋季大会で発表した。 ・シロギスの養殖技術開発の研究テーマを4年生の卒業研究の一環として取り組み、卒業研究発表を行った。 ・尾道特別支援校しまなみ分校と連携した水族館学習、図書館、幼稚園、水族館と連携した学習支援活動を通じて地域支援をそれぞれ行い、これらの成果を卒業研究発表会で発表した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	<p>本学科の教員が参画する研究プランディングの研究テーマは以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「生態系の解明」では瀬戸内海の森、川、干潟、藻場、浅海域にそれぞれ生育する生物の生態系を明らかにする研究を通じて全人教育の教育目的の1つである「生命と自然の尊重」、すなわち生命を尊重し、自然を敬う人を育成することが期待される。 ・シロギスの養殖やノリ養殖などの「産業支援・教育」の研究を通じて全人教育の教育目的の1つである「地域社会の発展への貢献」、すなわち社会の幅広い分野で活躍し、豊かな地域づくりに貢献できる人を育成することが期待される。 <p>今後、卒業生の動向をみながら、その成果を検証していく必要がある。</p>
年度目標	・年度計画に従って私立大学研究プランディング事業を推し進めていく。
年度報告	・現状を維持していく。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海中央部・芸予諸島の周辺浅海域における藻場・干潟および周辺生態系の多面的な機能を明らかにし、その機能を応用した産業支援と教育を推進することによって「瀬戸内の里山・里海学」の生態系と資源利用の研究の発展に貢献する活動を進めている。 ・4年生が藻場と干潟について生態学的特性と役割、現状と問題点について理解を深めるために「藻場の生物学」の授業を行っている。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年度計画に従って各研究テーマの研究を推進していく。 ・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ①平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ②平成30年度日本藻類学会要旨集 ③平成30年度福山大学生命工学部海洋生物科学科卒業研究発表会要旨集
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・2017(平成29年)度私立大学研究プランディング事業に採択され、その補助金を獲得している。 ・学科の各教員が、科研費をはじめとする各種の外部資金に積極的に応募している。 ・大学の学科に配分される教育・研究の予算を利用している。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	<ul style="list-style-type: none"> ①外部資金等受託申請書 ②福山大学グリーンサイエンス研究センターHP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞、地域情報誌、テレビ放送、大学HP、学会を通して研究成果を発表している。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を維持する。
年度報告	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビ放送、大学HP、学会を通してプランディング研究に関する研究成果を発表した。 ・プランディング研究に関する野外調査(ナルトビエイ・オオミズナギドリ・クロダイ)の様子を紹介した。
達成度	S
改善課題	

根拠資料	①テレビ放送(テレビ新広島「1分のチカラ『映像のチカラを探る!』2018年10月12日」 ②広島ホームテレビ「地球派宣言」2018年11月14日) ③平成30年度日本水産学会秋季大会要旨集 ④大学HP
次年度の課題と改善の方策	